

会議名	平成30年度第1回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	平成30年6月28日（木） 午後1時25分～午後2時37分
開催場所	坂出市役所本庁舎3階 委員会室
出席委員	國時 忠能, 木原 光治, 宮武 幸司, 中橋 恵美子, 林 美模, 三野 八重子

## 会議の経過および発言要旨

### 1. 開会

#### ●事務局

本日は、都合により会長が欠席となっているため、坂出市まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱第5条第4項の規定により、國時副会長に本日の進行をお願いする。

### 2. 議題

#### (1) 地方創生交付金に係る事業の効果検証について

#### ●副会長

それでは、議題（1）について、事務局より説明願いたい。

#### ●事務局

(資料1-1および資料1-2により説明)

#### ●委員

資料1-2の2ページに記載されている、王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」のKPIについて、利用者数は目標値を大きく上回っているのに、利用料収入は目標値を少し下回っている。

これは、利用者1人当たりの利用料収入の見込みが計算違いだったということなのか。

## ●生涯学習課

王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」の利用料については、周辺施設の利用料等を参考に設定している。

KPIとして掲げた目標値については、当該施設が「海の家」の代替施設であること等を踏まえ、基本的には「海の家」における利用者数および利用料収入の実績を基に設定したものである。

ただ、「交流の里 おうごし」と「海の家」では、立地条件や一度に受け入れることができる団体数が異なる。加えて、「交流の里 おうごし」については、地元の自治会や婦人会等が利用する場合には、利用料を無料にする等の減免措置を講じている。

以上のような経緯から、利用者数と利用料収入の違いが生じている。

## ●副会長

王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」改修整備事業では、トイレの改修が男子1基・女子1基となっているが、団体の利用を受け入れた場合、数としてはこれで十分なのか。

また、当該施設ではピザ窯用の小屋を新築したほか、王越町共に生きるまちづくり推進協議会がトンボウォッチング等の活動を行っているようだが、今後の事業展開はどのように考えているのか。

## ●生涯学習課

トイレ改修については、今回の地方創生拠点整備交付金を活用して、まだ整備できていなかった体育館のトイレを改修したということである。当該施設の開設時に、旧小学校校舎のトイレについては、既に改修を終えている。

受入可能な人数は、運動場部分についてはテントを利用するとして約100名、宿泊施設については1部屋15人の定員であり、合計3部屋で45名となっている。なお、食堂棟やシャワー室が1つしかないため、トラブル等が生じないように、宿泊の受け入れは1度に1団体のみとしている。

ピザ窯とトンボウォッチングについては、王越町共に生きるまちづくり推進協議会が熱心に活動していただいているが、地元の婦人部の方もピザに関する勉強をして独自にピザの体験教室等を実施しているほか、「交流の里 おうごし」から少し海側へ行った所にあるトンボランドでは、地元の方が以前からトンボウォッチングの取組を行っている。

また、市独自の取組として年に4回、自然観察会を開催しているが、様々な団体のご協力を頂きながら、この自然観察会の中でもトンボウォッチングを実施している。

## ●副会長

資料1-1の「カヌーのまち さかいで推進事業」について、先般、府中湖カヌー競技場でのハンガリーカヌーチームの事前合宿が決定したが、さらに他の国の事前合宿も受け入れることはできるのか。

## ●生涯学習課

ハンガリーは、カヌーで上位3傑に入るような国であり、前回のリオデジャネイロオリンピックでも金メダルを3つ獲得している。特に、女子の500mが強い。昨年10月、ハンガリーカヌー協会の会長等が視察に来たときにも、500mのコースを丁寧に観察していた。

府中湖カヌー競技場では、過去にも北京オリンピックの際にフィンランドが事前合宿を行った実績があるため、受け入れ態勢は十分にできている。

ただ、日本カヌー連盟からは、複数の国の事前合宿を受け入れてほしいという要請は受けている。最低でも5か国は受け入れてほしいと言われている。

何故かという、日本にはもともとカヌー競技場が少なく、特に府中湖カヌー競技場は、石川県の木場潟カヌー競技場と並ぶ国内トップクラスの競技場であり、現に木場潟カヌー競技場では、5か国の事前合宿を受け入れることとなっている。

しかしながら、国同士の関係もあり、ライバル国には手の内を見せないということもある。府中湖カヌー競技場については、今のところは、ハンガリーの独占使用になるのではないかと思っている。

## ●委員

地方創生交付金に係る事業については、目標値を達成、あるいはそれに近い実績を出しているの、素晴らしいと思う。

ただ、地方創生として最終的に目指すものは、KPIを達成することではなく、坂出に暮らしている子どもたちが、もし外に出ても、ふるさとに帰って来たいと思えるような、誇りを持てるまちづくりであり、また、市外や県外の人が、坂出に住みたいと思ってもらえるようなまちづくりである。

そういうことを考えたとき、次のステージとしては、広報やムードをどう醸成していくかということが問われると思う。

坂出市民でも、府中湖カヌー競技場に行ったことがある人は良さが分かっているかもしれないが、カヌーをしていない人はそもそも接点がないなど、まだまだ浸透していない部分があると思う。

## ●委員

私も府中湖カヌー競技場の優秀性は知っており、国を代表する施設であることをもっとアピールする必要があると思うが、競技とは別に、カヌーに親しむというような、遊びの部分もあわせて、両面でアピールしなければならないと思う。

高松市民で、坂出市がカヌーのまちであることを知っている人は、ほとんどいないと思う。もっと外にアピールできるような仕掛けを考えてもらえたらと思う。

それと、資料については、交付金を使って改修を行った箇所の図面なども付け加えてもらった方がより分かり易いので、今後はそうしていただきたい。

## ●委員

坂出市の中でも、まだまだカヌーのまちとしての意識がない。例えば、坂出市の学校ではカヌーの授業があるというような、そのくらいのインパクトがないと浸透しないのかなとも思う。

また、「交流の里 おうごし」に関して、王越町は高齢化が進み、人口も減っている。そういった中で、坂出市が王越という町をどのようにしていくのか、どのように考えているのかという展望を踏まえたうえで、当該施設の位置づけ、活用方法等を考えていってもらいたい。

## ●副会長

コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりにおいて、「交流の里 おうごし」はどのような位置づけなのか。

## ●事務局

コンパクトシティは、坂出駅を中心としたコンパクトなまちづくりであり、「交流の里 おうごし」は、地域の小さな拠点のようなものになる。

特に、王越町は人口減少や高齢化が進み、小学校も廃校になったということで、旧の小学校を活用しながら、地元の方々が中心となり、地域の活性化を図るという狙いもある。

## ●生涯学習課

先程、カヌーのまちの広報についての話があったが、カヌーについては様々な行事等を行っており、また、今年度から新たにカヌーの専任指導員を雇用したこともあり、市外・県外から非常に多くの方が府中湖カヌー競技場を訪れている。

約15名だった府中湖カヌークラブの人数も一気に80名まで増えており、ほとんどが市外の方である。府中小学校では新しくカヌークラブも結成されており、これらは、今までの取組が、目に見える形で表れて来ているものと考えている。

現在、市役所の中庭ではカヌー艇の展示を行っており、府中湖カヌー競技場では、毎年3月に海外派遣選手選考会が開催されているが、それに加え、今年は7月27日から3日間、全国の中学生カヌー大会も開催されることとなっている。

さらに、今年度から新たに雇用したカヌーの専任指導員については、市内の小中学校へ出前授業に行くということも計画しており、これらの取組により、ますます多くの方が府中湖カヌー競技場を訪れるようになっていくと考えている。

それと、王越宿泊型野外活動施設「交流の里 おうごし」については、地元の方々が体験型のメニューを考えてくれている。例えば、天草を取ってところてんを作る、王越町で育てている夏野菜でカレーを作るなど、いろいろなメニューを考えてくれている。

近い将来には、当該施設で地元の方々の雇用を生み、にぎわいづくりを進めていきたいと考えている。教育委員会としても、いろいろなメニューを提供していきたい。

なお、王越町には路線バスが通っているが、「交流の里 おうごし」へ子どもが来る際には、保護者が送迎するのではなく、路線バスを利用してもらうようにしており、その結果、路線バスの利用者数も増えている。

地域の活性化は、これからますます図れていくのではないかと考えている。

## ●委員

私は坂出に来るまで、坂出がカヌーのまちであることを知らなかった。ただ、20年くらい前から、西讃地域の高校生が府中湖カヌー競技場を利用していることは知っていたので、もっと上手くPRできていれば、既に坂出と言えばカヌーという雰囲気を作り上げることが出来ていたのではないかと思う。今後の課題だと思う。

また、県内の別の自治体では、少年サッカーの合宿等に使用できる多くの競技場を有する施設があり、旅行代理店が間に入って、夏の合宿等では非常に多くの利用があった。その後、詳細は分からないが、施設の維持費等の問題があり、利用料を少し引き上げたところ、一気に利用者数が減ったという話も聞いている。

そのため、「交流の里 おうごし」については、物価の変動等もあるため、ずっと利用料を変えないという訳にはいかないと思うが、長期にわたって施設を使用するという考えのもと、少しずつ修繕するなど、計画的な維持管理に努めてもらいたい。

### ●副会長

委員の皆様より様々な意見を頂いたが、今回の「カヌーのまち さかいで推進事業」および「交流の里 おうごし改修整備事業」の2つの事業については、有効であったと判断してよろしいでしょうか。

(委員一同承認)

### ●副会長

それでは、この2事業については、有効であったと結論づけさせていただく。

## 2. 議題

(2) 平成29年度第2回坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議における主な意見とその対応状況について

### ●副会長

それでは、議題(2)について、事務局より説明願いたい。

### ●事務局

(資料2により説明)

### ●委員

「図書館出前授業」に関して、近年は、小中学校に図書購入費用がしっかり予算配分され、小学校には図書支援員が配置されていることもあり、小学校では図書室の利用率および読書率が高い。

一方、中学校には図書支援員が配置されていないため、購入した図書を整理する時間もないという現場の声を聞く。

「図書館出前授業」も大事であるが、中学校にも図書支援員を配置していただかないと、小学校では読書率が上がっているのに、中学生になると図書室をあまり利用しないという現実がある。

中学校にも図書支援員を配置している市もあるので、人件費等も必要になると思うが、せっかく図書購入費を予算配分して新しい図書が入ってきているのに、それを上手く活用できていないのが中学校の現状だと思うので、中学校への図書支援員の配置もご検討いただきたい。

### ●大橋記念図書館

図書支援員の配置は学校教育課の所管事項になるが、図書館としても、中学校に対して出来ることは協力していきたいと思う。

ご意見については、学校教育課に伝える。

### ●副会長

「新婚世帯家賃補助事業」に関し、かがわ縁結び支援センターで各市町の補助制度に関するパンフレット等を設置するとのことだが、こうなると、各市町の補助制度を見比べられることになる。

他市の補助制度等について調査しているのか。

### ●委員

「新婚世帯家賃補助事業」については、県が、県外からの移住者に対する上乘せの補助制度を開始しており、本市も当該制度を活用している状況である。なお、本市では県内他市町からの転入に対する補助も行っているが、実施していない市町もあるので、特に他市町に比べて劣っているとは感じていない。

### ●副会長

補助金額までは分からないが、まんのう町は移住等に対する支援を頑張っているという話も聞く。

## ●事務局

おそらく、一戸建て住宅に対する補助制度のことだと思う。ただ、まんのう町と坂出市では、過疎化の度合いや立地状況等も異なっている。

坂出市では、コンパクトシティを推進するということで、2年前から中心市街地区域におけるマンション等の中高層共同住宅に対する補助制度を実施している。制度の趣旨としては、駅を中心とした中心市街地に、より多くの方に住んでいただきたいということである。こういう制度を実施しているのは、県内では坂出市だけである。

## ●委員

坂出市は、昼夜間人口比率が高い。これは、坂出市が通勤に便利だから、住まずに他市町から働きに来ているということでもある。

そうであるならば、少なくとも坂出市で働いている人には坂出市に住んでもらおうということで、市外から市内の企業や店舗に勤めに来ている人が坂出市に引っ越す場合に支援するとか、坂出市オリジナルの制度を創設してはどうか。

「新婚世帯家賃補助事業」は他市町でも実施しており、高松市では近居の際の補助制度もある。昼夜間人口比率が高いという坂出市の特徴を踏まえた制度を考えてはどうか。

## ●事務局

ご指摘のとおり、坂出市は昼夜間人口比率が高く、働きに来ているが住んでいない人が多いという状況がある。

これは、昔に比べて道路状況等が良くなったため、以前よりは遠方から働きに来ることが出来るようになったことがあると思われる。それに加え、悪く言えば、坂出市には住みたいと思えるような魅力が十分ではないということもあるのではないかと思う。

そうした中で、駅を中心とした中心市街地に一定の住宅供給ができれば、利便性等を勘案すると、もっと住んでいただけるのではないかと考えている。

以前に比べると、中心市街地では商店街も地盤沈下し、空き家も増えている。その原因の1つとしては、車社会が進む中、郊外と比べると道路状況が悪いため、開発が進んでいないことがある。

そういった状況も含め、先ほど申し上げたマンション等の中高層共同住宅に対する補助制度は、細かな土地の集約など、官ではなかなか出来ないことを民間にやっていただいて、優良な住宅を供給してもらおうという趣旨の制度でもある。

なお、一戸建て住宅に対する補助制度については、市外から転入して来る人にだけ補助するとなると、一方で、市内に長く住んで税金も納めて頂いた人が恩恵を受けられないということにもなるため、実施はなかなか難しいのではないかと考えている。

## ●委員

先日、三豊市のファミリー・サポート・センターの講座に行ったとき、受講されている方が、近所の空き家を市がお試し移住のためにリノベーションしたという話をしていた。

その方は、お試し移住をするのは子育て世帯の方が多いが、そもそも移住者は周りに親戚等がおらず孤立しがちなため、移住者の支援に役立てるために講座を受講しに来ているとのことだった。

市が空き家をリノベーションし、市民が移住者をサポートするという、素晴らしい取組であると思った。坂出市にも空き家は多いが、同様の事業はあるのか。

## ●事務局

今年度より、空き家対策および移住促進という観点から、空き家バンクに登録されている住宅に対する改修費用等の補助制度を開始した。今のところ、問い合わせはあるが、実績はない。固定資産税の納税通知書にチラシを同封するなど、制度の周知も図っているところである。

## ●委員

空き家問題も、大きな問題になってきている。高松市の会議では、空き家になっているが仏壇があるので活用しづらいという話が出ていた。先手を打って対策していかなければならない問題だと思う。

## ●委員

先日、香川短期大学の学長と話す機会があったが、丸亀市や宇多津町とは協定を締結しているが、坂出市とは締結していないということだった。

香川短期大学の学生は、子育て関係のことを学んでいる学生が多く、学習の一環として、ボランティアでいろいろなことをやってくれると思うので、ぜひ検討してみてはどうかと思う。

## ●事務局

坂出市では現在、香川大学、四国学院大学、神戸芸術工科大学の3大学と協定を締結している。香川短期大学については、これまで具体的な話がなかったのだろうと思う。

なお、協定を締結するとしても、市としても大学としても、実効性がある方が良くと思うので、今後、どういった分野で連携できるのかということも検討していきたい。

## ●委員

小学校の図書支援員については、大橋記念図書館で何校かに1人の割合で受け持っていると思うが、各校に常時1人いるのが理想だと思っている。

今頃の子ども達は、非行率は減っているが、引きこもりや不登校が増えてきている。図書室は、そういった子ども達の居場所作りにもなると思うので、常に開いている、誰かがいるという状況を作っておく方が良く思う。

最近、地域とともに学校を運営していくという動きがある中で、図書支援員の方が望ましいとは思いますが、必ずしもそうではなく、地域のボランティアの方を活用するという方法もあるのではないかと考えている。

また、観光振興事業について、先日、瀬戸大橋記念公園に行ってきたが、施設の噴水の水が止まっていた。イベントがない日でも非常に多くの人を訪れる施設であり、噴水で水遊びをする子ども達も多いが、衛生面で不安があるので、対応をお願いしたい。

## ●事務局

当該施設は県の施設であり、管理運営は指定管理者である瀬戸大橋記念公園管理協会が行っているため、その旨を伝えておく。

## ●委員

隣の宇多津町に水族館ができることになったが、ただ見ているだけでなく、こちらからアプローチするなどして、水族館と坂出市内を結ぶ観光ルートの設定等ができないか。観光の目玉になる施設だと思う。

それともう一つ、高松市では男木島の小・中学校が再開して話題になったが、坂出市では瀬居幼稚園が今年の春から休園になってしまった。先日、瀬居中学校の講演に呼ばれて行ったが、生徒が17人、教職員が10人で、子ども達に対して非常に手厚く対応できているという話を聞いた。

手厚く対応できている反面、人数が少なくサッカー部も野球部もできないので、どのような部活動を行っているのかと聞いたら、バドミントン部とのことだった。

ただ、子ども達は様々なことを体験して生活能力が付いていくので、街中の中学校との交流もしていると思うが、そういう事もしつつ、瀬居は島と言っても陸続きではあるが、島の幼稚園も残して欲しい。

移住施策については、街中への移住も進めつつ、ロハスな暮らしをしたい人達に向けた島への移住施策も進めていけば良いのではないかと思う。

## 2. 議題

### (3) その他

#### ●事務局

本日頂いたご意見については、今後の本市の施策に生かしてまいりたい。

なお、現在の委員の任期は8月までとなる。

今年度の第2回会議は、国の動向等にもよるが、秋頃に開催予定としている。

## 3. 閉会